

参 考 資 料

1 愛知県特別支援教育推進計画検討会議開催要綱

【愛知県特別支援教育推進計画検討会議開催要綱】

(目的)

第1 特別支援教育について、関係者から幅広く意見を伺いながら、様々な課題を総合的にとらえ、中・長期的な視点に立った本県の特別支援教育の推進方策を検討するため、愛知県特別支援教育推進計画検討会議（以下「検討会議」という）を置く。

(構成)

第2 検討会議は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市町村関係者
- (3) 学校関係者
- (4) 就労関係者
- (5) 保護者・団体関係者
- (6) 医療・相談関係者

(座長等)

第3 検討会議には、座長及び副座長を置く。

- 2 座長及び副座長は、構成員の中から互選する。
- 3 座長は、会務を総理する。
- 4 副座長は座長を補佐し、座長に事故あるときはその職務を代理する。

(検討会議の招集)

第4 検討会議は、教育委員会教育長が招集する。

(幹事)

第5 検討会議には、幹事を置く。幹事は検討会議の事務について委員を助ける。

(意見聴取)

第6 検討会議は、必要があると認めたとき、その構成員以外から出席を求めて意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7 検討会議には、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会は、幼・小中学校、高等学校、特別支援学校に関する専門事項について検討等を行うものとし、その構成員及び委員長は、教育委員会教育長が別に定める。

(検討会議の公開)

第8 検討会議は、座長の判断により、検討会議の一部又は全部を公開しないことができる。

(庶務)

第9 検討会議に関する庶務は、教育委員会特別支援教育課において処理する。

(会議録)

第10 検討会議は、会議録を作成し、その保存期間は5年とする。

(雑則)

第11 この要綱に定めるもののほか、検討会議に関し必要な事項は、教育委員会教育長が定める。

附則

この要綱は、平成25年5月17日から施行する。

【愛知県特別支援教育推進計画検討会議委員名簿】（50音順、敬称略）

氏 名	所 属 等
岩 井 昇	愛知県健康福祉部次長
岩 間 博	愛知県公立高等学校長会会長（県立岡崎高等学校長）
大 沢 勝	愛知県社会福祉協議会会長
岡 田 豊	愛知県小中学校長会会長（岡崎市立井田小学校長）
小 塩 允 護	愛知淑徳大学教授 <副座長>
加 藤 正 俊	愛知県都市教育委員会教育長代表（豊橋市）
川 島 毅	愛知県県民生活部次長
桐 戸 伊和夫	愛知県知的障害者育成会会長
栗 原 啓 二	愛知県特別支援学校長会会長（県立春日井高等養護学校長）
清 水 順 三	愛知県経営者協会会長
下 田 一 幸	名古屋市教育委員会教育長
鈴 木 照 美	愛知県国公立幼稚園長会会長（名古屋市立第一幼稚園長）
鈴 木 寛	愛知県自閉症協会理事長
高 橋 脩	豊田市こども発達センター長
都 築 繁 幸	愛知教育大学副学長 <座長>
鶴 田 欣 也	愛知県中小企業団体中央会会長
中 神 達 二	愛知県肢体不自由児・者父母の会連合会会長
中 島 博 明	愛知県町村教育委員会教育長代表（扶桑町）
萩 本 益 巳	アイシン精機株式会社人事部要員採用グループ
廣 中 清 介	愛知県小中学校 PTA 連絡協議会会長 25. 5. 17～25. 10. 28
水 野 成 規	愛知県小中学校 PTA 連絡協議会会長 25. 10. 29～26. 3. 31
三 輪 幸 司	愛知県特別支援教育推進連盟理事長
三 輪 宗 文	愛知労働局職業安定部部長
森 鋭 一	愛知県産業労働部労政担当局長
山 口 みゆき	愛知県公立特別支援学校 PTA 連絡協議会会長

25名

【幼稚園・保育所、小中学校特別支援教育課題調査研究会議委員名簿】（事務局を除く委員のみ、50音順、敬称略）

氏名	所属等
赤根 昭英	愛知県小中学校長会名古屋市長代表（名古屋市立大須小学校長）
伊藤 園子	(社)愛知県私立幼稚園連盟会長（学校法人春日井学院いとう幼稚園長）
井上 正英	三河地区教育事務所長代表（西三河教育事務所）
岡田 豊	愛知県小中学校長会会長（岡崎市立井田小学校長）
小野 隆彦	愛知県小中学校長会尾張部代表（愛西市立勝幡小学校長）
各務 泰	愛知県総合教育センター相談部長
勝田 拓真	尾張地区教育事務所長代表（海部教育事務所）
加納 勝彦	愛知県小中学校長会三河部代表（豊田市立朝日丘中学校長）
澤田 喜之	愛知県公立高等学校長会理事（愛知県立一宮高等学校長）
鈴木 照美	愛知県国公立幼稚園長会会長（名古屋市立第一幼稚園長）
松原 光彦	県民生活部学事振興課私学振興室長

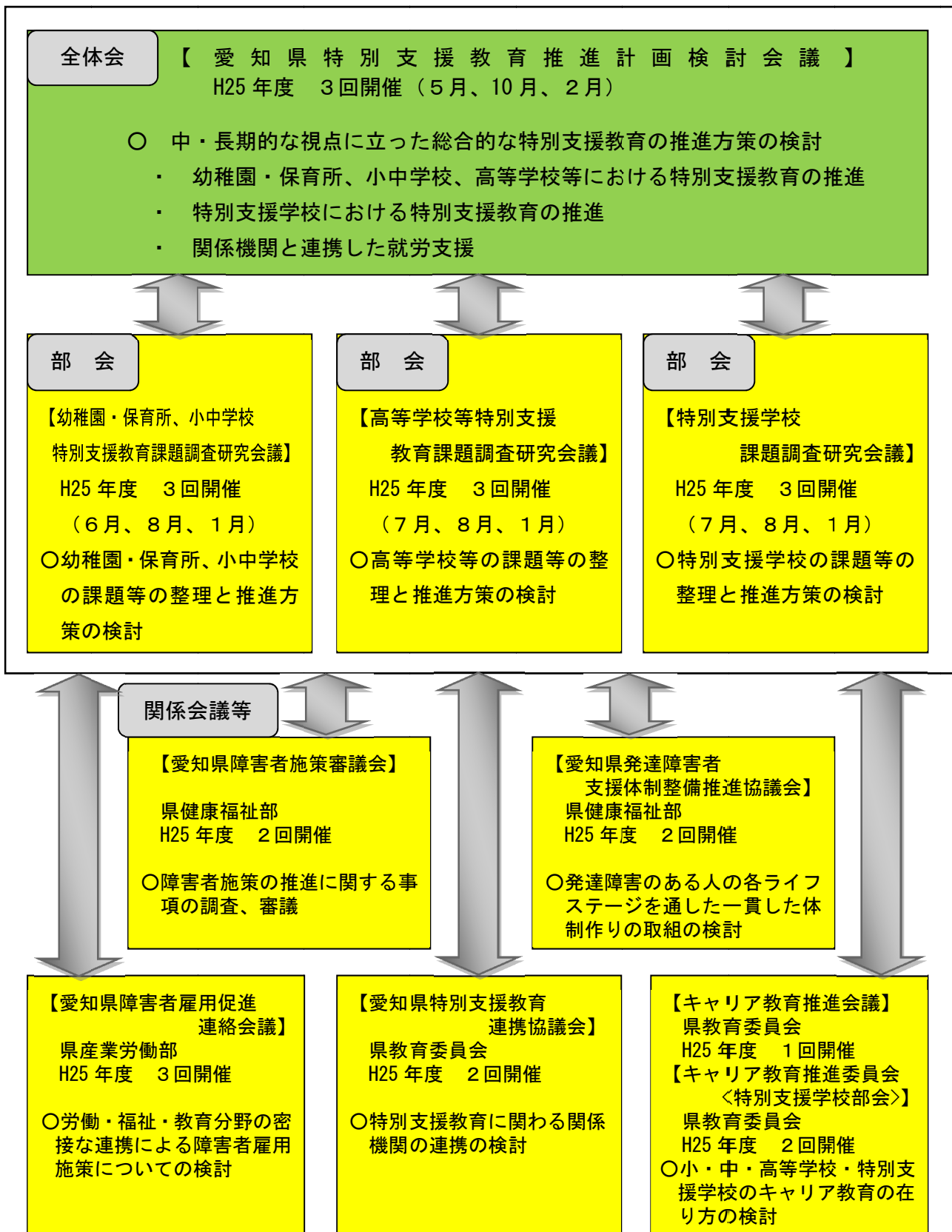
【高等学校等特別支援教育課題調査研究会議委員名簿】（事務局を除く委員のみ、50音順、敬称略）

氏名	所属等
岩間 博	愛知県公立高等学校長会会長（県立岡崎高等学校長）
上田 裕	愛知県公立高等学校長会理事（県立名古屋聾学校長）
川嶋 繁勝	愛知県公立高等学校長会理事（県立愛知工業高等学校長）
田中 信幸	愛知県公立高等学校長会理事（県立半田高等学校長）
塚本 昭彦	愛知県公立高等学校長会理事（県立安城農林高等学校長）
細溝 典彦	愛知県公立高等学校長会理事（県立刈谷東高等学校長）
松原 正明	愛知県総合教育センター相談部教育相談研究室長
間宮 一高	愛知県公立高等学校長会副会長（県立小牧養護学校長）

【特別支援学校課題調査研究会議委員名簿】（事務局を除く委員のみ、50音順、敬称略）

氏名	所属等
大胡田 昭二	愛知県立特別支援学校長会病弱養護学校代表（県立大府養護学校長）
各務 泰	愛知県総合教育センター相談部長
栗原 啓二	愛知県立特別支援学校長会会長（県立春日井高等養護学校長）
鈴木 眞二	愛知県立特別支援学校長会知的障害養護学校代表（県立一宮東養護学校長）
間宮 一高	愛知県公立高等学校長会副会長（県立小牧養護学校長）
水谷 厚彦	愛知県立特別支援学校長会盲学校代表（県立岡崎盲学校長）
光田 博英	愛知県立特別支援学校長会肢体不自由養護学校代表（県立一宮養護学校長）
三宅 美佐子	愛知県立特別支援学校長会聾学校代表（県立一宮聾学校長）
吉田 元彦	名古屋市立特別支援学校長代表（名古屋市立南養護学校長）

2 愛知県特別支援教育推進計画検討会議に関わる会議等



3 愛知県特別支援教育推進計画の策定経過

時期	会 議 等
平成25年 5月	31日 第1回愛知県特別支援教育推進計画検討会議 ○推進計画骨子案について
6月	6日 第1回幼稚園・保育所、小中学校課題調査研究会議
7月	2日 第1回特別支援学校課題調査研究会議 9日 第1回高等学校等課題調査研究会議
8月	26日 第2回高等学校等課題調査研究会議 27日 第2回幼稚園・保育所、小中学校課題調査研究会議 30日 第2回特別支援学校課題調査研究会議
10月	29日 第2回愛知県特別支援教育推進計画検討会議 ○推進計画素案について
11月	パブリックコメント 11月26日～12月25日
12月	
平成26年 1月	21日 第3回特別支援学校課題調査研究会議 29日 第3回高等学校等課題調査研究会議 30日 第3回幼稚園・保育所、小中学校課題調査研究会議
2月	17日 第3回愛知県特別支援教育推進計画検討会議 ○推進計画案について
3月	教育委員会会議により決定 リーフレットの配布
4月	教育委員会ホームページへの掲載

4 パブリック・コメントの概要

○ 意見募集期間 平成25年11月26日から平成25年12月25日まで

○ 応募状況 提出人数 101人 提出件数 290件

(1) 提出方法

郵送	ファクシミリ	電子メール	持参	合計
3	17	77	4	101

(2) 男女別

男性	女性	不明	合計
33	63	5	101

(3) 年代別

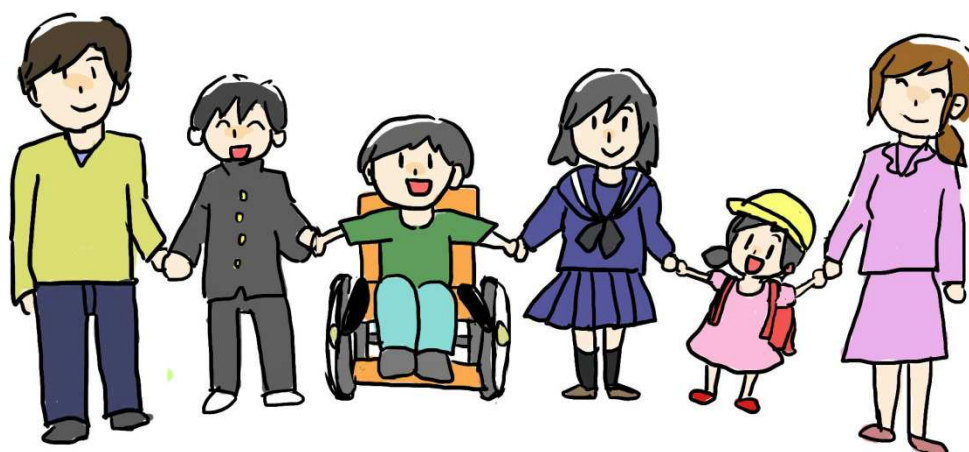
20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
1	7	40	28	6	1	18	101

(4) 地域別

名古屋	尾張	知多	西三河	東三河	不明	合計
21	36	4	6	20	14	101

(5) 職業別

教員	公務員	会社員	団体職員	保育士	主婦	弁護士	作業療法士
32	11	4	9	1	22	1	1
医師	町議会議員	自営業	大学講師	パート職員	無職	不明	合計
1	1	5	1	3	3	6	101



5 個別の指導計画書式サンプル

【小中学校用】

秘

平成（ ）年度 個別の指導計画

平成 年 月 日作成

学年	児童生徒氏名			作成者			所属	学校
							職名	
本年度の目標				支援の手だて				
願	い							
場面	短期の目標	主な支援場面 (担当者)	具体的支援		評価			
学習上の支援								
生活上の支援								
経過記録								
次年度への引継ぎ事項								

- ・本シートは1年更新とする。なお、追記は随時行う。
- ・本人の気持ちを大切に無理のない支援方法を考え、記載する。

【小学校記入例（通常の学級在籍用）】

秘

平成（ ）年度 個別の指導計画

平成〇年〇月〇日作成

学年	児童	〇〇〇〇	作成者	〇〇〇〇	所属	〇〇小学校
〇年	氏名				職名	教諭
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 学級の係活動ができるようになる 落ち着いて授業を受けることができる。 		支援の手だて	<ul style="list-style-type: none"> 動物好きであるため、メダカ係にすることで、意欲の向上と継続的な活動を目指す。 座席を最前列廊下側に固定したり、TTで個別指導をしたりして、注意の持続力を高める。 		
願い	<p>【本人】友達と仲良く遊びたい。</p> <p>【保護者】①基礎学力を身に付けてほしい。②先生の言うことを聞ける子になってほしい。</p>					
場面	短期の目標	主な支援場面(担当者)	具体的支援	評価		
学習上の支援	漢字の書き取りを丁寧に書く。	国語(TT)	マス目が大きく本人の好きなキャラクター入りの原稿用紙を常に準備しておき、マス目の枠内に手本を視写させる。	<ul style="list-style-type: none"> 原稿用紙の活用により意欲が向上した。 T2と一緒に別室で声を出して読ませながら書き取りをさせると、さらに意欲が増した。 		
	作品を最後まで完成させる。	図画工作(教科担任)	完成作品を準備し、制作手順をカードにして順番に提示する。	<ul style="list-style-type: none"> 作業の見通しをもてると、我慢強く最後まで取り組めた。 		
	動物の飼育を毎日続ける。	理科学級活動(担任)	理科「生命のたんじょう」で、メダカにえさを毎日やる係にし、頑張って続けられるよう声掛けをする。	<ul style="list-style-type: none"> 「自分のメダカ」という意識が芽生え、授業に向かう姿勢が改善された。 		
生活上の支援	順番を守って、行動する。	学級活動朝帰りの会 休憩時間 給食	<ul style="list-style-type: none"> 列に並んで順番を待つよう繰り返し指導し、周囲の児童にも「〇〇君の番はここだよ」といった声掛け等の協力を依頼する。 よくできた時は、褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇君らの協力でも、何でも1番になりたがることを我慢できるようになってきた。 		
	黙って教室を出ていかない。	学級活動朝の会 帰りの会 休憩時間 給食	<ul style="list-style-type: none"> 本人の居場所である保健室のベッドの下にいたら、落ち着くまで、そのままにする。 	<ul style="list-style-type: none"> トラブルが起こるとまだどうしていいかわからない様子。 		
経過記録	<p>〇月 ソーラーカー制作で、手伝ってくれた友達に「ありがとう」と自分から言えた。</p> <p>〇月 家庭でもメダカを飼育し始め、えさをやっていると母親から連絡があった。</p>					
次年度への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> 本人が「自分でできる」と思わないと意欲が出てこないため、一つずつ本人ができそうな目標を与えながら、できたら褒めるようにしてほしい。(作業手順をカードで視覚的に示すと効果的である) 現在の連絡帳を同じ方法で使用し、保護者との連絡をさらに密にしていく必要がある。 養護教諭との連携を深めて、本人が教室を出ていった時の対処に当たること。 通学班の班長には、登校時のトラブルへの対処法を事前指導しておくこと。 					

【中学校記入例（通常の学級在籍用）】

秘

平成（ ）年度 個別の指導計画

平成〇年〇月〇日作成

学年	生徒	〇〇〇〇	作成者	〇〇〇〇	所属	〇〇中学校
〇年	氏名				職名	教諭
本年度の目標	○友達や教師など、他の人に自分の考えが伝わるように話す。 ○学習の用具や提出するプリントを確実に持つてくる。 ○小6レベルの漢字や計算問題などを正確に書き、解くことができる。		支援の手立て	○教師とのロールプレイ等を行い、望ましい方法について考える。 ○本人に合った連絡の確認の仕方を本人と相談しながら決定する。 ○個に応じた課題を提示する。		
願い	【本人】①勉強で苦手なところを減らしたい。②友達と仲良く遊びたい。 【保護者】①友達と楽しく学校生活を送ってほしい。②少しでも学力を伸ばしてほしい。					
場面	短期の目標	主な支援場面（担当者）	具体的支援	評価		
学習上の支援	・中学校1年生で習う漢字の習得数を増やす。	国語（教科担任）	・漢字を練習するマス目を大きくする。 ・書き順にはこだわらず、形が整っていればよいこととする。 ・なぞって練習する割合を増やす。 ・練習した漢字の確認テスト（5問程度）を頻繁に行う。	・1個の漢字に対する練習回数は最高でも10回まで。 ・練習後すぐにテストを行い、評価をすることで本人の意欲が続くようになった。		
	・板書の内容をノートに写す。	全教科（教科担任）	・教師が、本人の書くスピードを考慮し、写す部分を指示する。 ・行替えなどは、黒板の通りでよいことを伝える。	・写す場所がわからなくなってしまうことがあった。 ・ノートの3分の1程度までが目安のようである。		
生活上の支援	・教師に自分の思っていることや考えたことを伝える。	道徳学級活動朝の会帰りの会放課（担任）	・道徳の時間で、自分の考えを発表するとき、「僕は、〇〇だと思う。」というような穴埋め式のワークシートを準備し、読めばよいようにする。 ・エンカウンターを実施する。 ・教師から、積極的に声をかけ、会話を促すようにする。	・ワークシートに記入できれば、その通りに読んで発表することができた。 ・指名順が早い方が発表できる。 ・エンカウターの後は、「楽しかった。」と感想を書いた。 ・話し方は、単語をつなげるようなたどたどしさがあるが、教師の質問に答えることができた。		
	・連絡帳に、確実に連絡事項を記入する。	帰りの会（担任） 教科の授業（教科担任）	・口頭だけの連絡は避け、背面黒板に連絡事項を記入する欄を設け、本人が見ながら書くことができるようにする。（授業での連絡も同様にするよう、教科担任に依頼） ・担任と保護者で、連絡帳を確認する。	・授業の用具の忘れ物が少なくなった。 ・記入する量によっては、時間内に書き終わらないことがあるので、連絡帳の様式を工夫する必要がある。		
経過記録	〇月 母親より、「学校のでできごとを聞くと、答えることが増えてきた。」と伝えられる。 〇月 本人が、「書き写す場所が決まっているので、連絡帳への記入が楽になった。」と言う。					
次年度への引継ぎ事項	・漢字の習得については、本人にこの学習方法が定着しているので、来年度以降も続けてほしい。 ・板書を写す場所がわからなくなることがあったので、写す場所や示す方法について検討する必要がある。（授業全体の流れを妨げないようにすることも大切である。） ・連絡帳は、みんなと違う物を使う場合、本人の意思も尊重しながら行った方がよい。 ・教科担任への協力依頼を確実に行ってほしい。					

【高等学校等用】

個 別 の 指 導 計 画

氏名		男・女
----	--	-----

学校名		愛知県立 高等学校	
1年	組	記入者	
2年	組	記入者	
3年	組	記入者	

出身中学校名	中学校
--------	-----

引継ぎの有無	有 ・ 無
引継ぎ者	

留 意 事 項	1 年	2 年	3 年
引継ぎ要点 (特記事項)			
校内委員会等			
対応方法等			
《 ね ら い 》			
記 載 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日

【高等学校等記入例】

個 別 の 指 導 計 画

氏名	〇〇 〇〇	男 女	学校名		愛知県立〇〇高等学校	
			1年	〇 組	記入者	〇〇 〇〇
			2年	〇 組	記入者	〇〇 〇〇
			3年	組	記入者	

出身中学校名	〇〇市立〇〇中学校	引継ぎの有無	有 ・ 無
		引継ぎ者	〇〇中学校 〇〇 〇〇

留 意 事 項	1 年	2 年	3 年
引継ぎ要点 (特記事項)	<p>体育の授業など、室内で大勢の集団でいると、ざわざわした騒音で気持ちが不安定になり、集団行動がとれなくなるときがある。 急に予定が変わるなど見通しがもてないときに不安から情緒が不安定になり、他者に対して攻撃的(他者を傷つける発言、たたくなど)になるときがある。 保護者と対応の仕方について相談し、理解を得ている。</p>	<p>1年の球技大会で、クラスの生徒が大きな声で応援しているときに、耳をふさぐなど情緒の不安定さが見られたが、少し離れた所で見学することで、すぐに落ち着くことができた。 本人、保護者とも卒業後は就職を希望している。物作りが好きであるが、大きな音や騒音のない就職先を希望している。</p>	
校内委員会等	<p>校内委員会では、特に、体育の授業中における配慮が必要なので、体育科の職員に共通理解を図るとよいと指導があった。 体育科職員の共通認識を図り、適切な配慮方法をとることで、落ち着いて学習活動に取り組むことができている。 他の生徒への説明については、行わないことを確認した。</p>	<p>年度当初に、新たな担当者へ情報の伝達を行った。 クラスの生徒が〇〇さんの行動について話題にしはじめたので、クラスの生徒に(〇〇さん、保護者の承諾のもと)〇〇さんが困ることや〇〇さんとの関わり方について話し合った。</p>	
対応方法等	<p>〇〇さんの近くで大きな声や音を出すことをあらかじめ極力、控えるようにする。 気持ちが不安定になったときに、少し静かな場所へ移動してクールダウンすることで学習に戻れることが多い。</p>	<p>事前に昨年の応援合戦の様子をVTRで見せるなど、視覚的に提示すると見通しがもて、落ち着いて行動できることが多い。 少しずつ自分で感情をコントロールできるようになっていることを認め、褒めるように努める。</p>	
《 ね ら い 》	<p>事前に過去のVTRを見せたり、詳しく説明をしたりすることで、学校や学年の行事等に、見通しをもち落ち着いて参加することができるようにする。</p>	<p>行事や学習活動に参加する時には、あらかじめクラスの生徒と一緒に活動の流れを確認してから取り組むことで、クラスの生徒と一緒に参加することができるようにする。 集団の中で、落ち着いて行動しながら、生徒同士のコミュニケーションがとれるようにする。</p>	
記 載 日	平成24年6月18日	平成25年6月20日	平成 年 月 日



愛知県教育委員会

(特別支援教育課)

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電 話 052-954-6791 (ダイヤルイン)
F A X 052-954-6964